

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690900309		
法人名	株式会社ケア21		
事業所名	グループホームたのしい家醍醐 1ユニット		
所在地	京都府京都市伏見区醍醐新町裏町5-1		
自己評価作成日	平成30年2月1日	評価結果市町村受理日	平成30年6月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JirvosyoCd=2690900309-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成30年3月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者様に穏やかに暮らして頂けるように適宜職員同士で意見交換を行ない、利用者様にあった支援、介助を実践しています。外出にも力を入れており、買い物、お散歩等利用者様の外出の機会を多く作ることで、開放的な施設を目指しております。地域のイベント等に利用者様と参加、月に一回は利用者様と施設周りの清掃も行ない、地域との交流にも取り組んでいます。また職員のスキルアップの為に社内研修のほかに薬局にお声掛けし、薬に関しての研修も実施しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは「笑顔あふれる家」というホーム独自の理念を掲げ、その理念を基に職員間で話し合い各フロアごとの目標項目を決めて、日々利用者の笑顔が見られるよう支援に当たっています。職員の関係性は良好で積極的な意見交換が行われ、連携良く日々の支援や外出行事等に取り組んでいます。また、地域との関係性も大切にしており、ホーム周辺の地域清掃や防災訓練など地域行事にもできるだけ参加し、ホーム主催の秋祭りには多数の地域の方の参加を得て交流するなど地域との関わりが少しずつ広がっています。食事については業者から献立と食材を届けてもらいホーム内で調理し月に1~2回は利用者の好みを取り入れたメニューにしたり、クリスマス会には家族に参加してもらい一緒にバイキング食にする等、利用者にとって食事が楽しみなものになるよう工夫しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設として職員一同一つの目標に向かえるよう努めております。また、各フロアでも理念を掲げ日々ケアに努めております。	開設時に職員で話し合い決めた「笑顔あふれる家」というホーム独自の理念を掲げ、入職時に説明し目に付くところに掲示しています。全体会議などで振り返りの場を設け、達成状況の確認を行い、見直しが必要かどうかも含めて定期的に検討しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会し、回覧板などで地域の情報を確認し、地域のイベント等は積極的に参加し、入居者様にも参加して頂いています。	町内会に加入し地域情報を得て、利用者と一緒に防災訓練に参加したり指定避難場所である高校の生徒と交流し、また月1回の地域清掃へ参加しています。近隣の方と行き会った時には挨拶や会話を交わしたり、ホーム主催の秋祭りには地域の方の多くの参加もあり、地域との関わりが少しずつ広がっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方も参加できるイベントの開催。月一回、入居者様も参加して頂き、かど掃きを行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で報告を行ない、家族様・地域包括の方々の意見を頂き実施し、次回会議時に実施状況等を報告し、サービス向上に努めています。	運営推進会議は2カ月に1回、利用者や家族、町内会長、地域包括支援センター職員などの参加を得て開催しています。ホームからは事故や苦情、ヒヤリハット、職員状況、運営状況などを報告し、参加者からは報告に対して意見やアドバイスをもらい情報交換の場となっており、サービスの向上等につなげていきます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	今期より町内会に入りましたが、日頃から密に連絡を取るまでには至っておりません。	行政との関わりについては、事故報告や更新時の手続きに訪れたり、分からない事がある場合は電話などで質問や相談をしています。行政から案内が届く研修にはできるだけ参加し、意見交換をしたりアドバイスをもらっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	家族様の不安なことや思いを聞き取り、フロアで共有し、要望に添い安心して頂けるように努めております。	年1回、法人主催の身体拘束についての研修に代表者が参加し、資料を基にホーム内で伝達研修をしています。その際に職員アンケートを実施して自己評価を行い振り返りの機会も設けています。声のかけ方や言葉による拘束についても配慮し、不適切な対応があったときには、その都度、職員同士又は管理者が注意しています。外出を希望する利用者に対しては、職員が付き添い散歩等に出かけ気分転換を図り、拘束感のないケアに努めています。	

グループホームたのしい家醍醐 1ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待防止研修を実施しております。その中で職員と話し合い、日々の虐待はないか、虐待にあたるようなことはないか等、話し合いの場を設けております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内の研修に含まれています。必要に応じて提案させて頂き活用させて頂いております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行っており、理解・納得頂けるよう努めております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の実施。その時々意見を取り、会議等で職員に報告し、日々ご要望にお応えできるよう努めています。	利用者の要望は日々聞くようにしており、家族の意見や要望については、面会時や運営推進会議の時など利用者の様子を伝えながら聞くようにしています。家族から全職員の名前が分かるようにしてほしいとの要望があり、玄関先に写真と名前を掲示したり、外出の要望については外出の機会を増やすなど運営に反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議・施設会議を開催し、職員で意見交換しております。	職員の意見は日々の業務の中やフロア会議、施設会議などで聞くようにしています。管理者が定期的や職員の様子を見ながら随時に意見を聞くこともあります。得られた意見の中から薬剤師による定期的な薬についての研修会を実施したり、シフト体制の見直しや利用者が体調不良の時に居室でも食事ができるようなテーブルの物品購入など業務改善に繋げています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人員の不足・入居者様の重度化により、環境や条件は不十分だと感じています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月研修を行っております。中には、薬局の方が行なって頂ける研修なども開催しております。社内では、フォローアップ研修を行っております。		

グループホームたのしい家醍醐 1ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	不定期ではありますが、グループホームの会等、シンポジウムに参加し、同業者と交流をしています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様から聞き取りを行い、不安・要望を確認し、職員に伝え、本人様のニーズに応じた関わりを持てるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の不安なことや思いを聞き取り、フロアで共有し、要望に添い安心して頂けるように努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様・家族様からの聞き取りで必要と思われることわ提案し、サービス提供に努めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様が職員も共に暮らす一員として感じて頂けるように努めております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	離れて生活される中でも本人様と家族様の絆を大切にできるよう努めております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人の方には面会が主になっております。他には自宅におられた頃より利用されていた配達のお牛乳屋さんなどの関係が途切れないように配達を施設にして頂いたり関係の継続に努めております。	知人や友人の来訪時には椅子やテーブル、お茶を出すなどして共用空間や居室で寛いでもらえるように配慮しています。家族と一緒に馴染みのスーパーや理髪店、洋品店に出かけたり、墓参りや冠婚葬祭への参列時には身支度の準備や車椅子の貸し出し、介護タクシーの手配などの支援をしています。	

グループホームたのしい家醍醐 1ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士でお話しされてり、関係は出来ています。時には職員も間に入りお話しをしたりと入居者様同士の関係の維持に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	イベント等の案内をさせて頂き関係を大切にしております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の思いをくみ取れるよう、日々の言動・行動に注意し、本人様の意向に沿える様に努めております。	入居前にこれまでの生活歴や趣味、嗜好、介護サービスの利用状況、利用者や家族の思い、意向を確認しアセスメントシートに記載しています。入居後は日々の様子や気づきを介護記録に残し、思いの把握が困難な利用者についても本人本位の立場になって介護記録を基にカンファレンス等で検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人様にアセスメントを実施。家族様に聞き取りを行ない、その他にも日々の会話から情報を把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアの中での気づきを職員で共有し、現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その方の日々の暮らし方、変化を把握し、家族様等に報告、相談し、現状に即した介護計画作成に努めております。	利用者や家族の意向から作成されたアセスメントシートを基にサービス担当者会議を開催し介護計画を作成しています。利用者の状態に応じて、6カ月もしくは1年で見直しを行い、中間でモニタリングと評価を行っています。見直しの際には再アセスメントを行い、事前に家族や医師などの意見を確認しサービス担当者会議で話し合い、状況に応じた計画となるように努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	定期的にモニタリングを行ない、職員で話し合い新たな課題を見つけ、見直しを実施しております。		

グループホームたのしい家醍醐 1ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の言動行動を柔軟にとらえ、支援やサービスに生かせるよう努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様全員に実施は出来ておりませんが、家事のお手伝いや、定期的に行なっている施設周りのかど掃きなど参加して頂いております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様、家族様の希望に添った医療機関への受診を優先して、医療機関との密な関係を構築し、安心した医療を受けられるよう努めております。	入居時に以前のかかりつけ医を継続することが可能である事とホームの協力医体制について説明しています。協力医や歯科医師の往診や訪問看護師の訪問が定期的であり、必要に応じて訪問マッサージを受ける事も可能です。専門医の受診は基本、家族対応ですが必要に応じて職員が同行することもあり、受診後の結果については書面や口頭にて家族と情報を共有しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護との情報共有を行ない、本人様にとって安心できるように受診や看護を受けられるように努めております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は面会を行ない、医療機関との連絡を取り本人様の状態を把握し、適切な対応に努めております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化指針等の説明を行ないません。またその状態になられた際は、再度説明と方向性を話し合うようにしております。	入居時にホームとしてできる看取り支援について説明しています。重度化した場合は医師から家族に状況の説明があり、意向を確認し、家族や医師、職員の三者で話し合いを重ね方針を決定しています。家族の頻回な面会や日中の付き添いなど家族の協力も得ながら支援をしています。年に1回、法人が行う看取り研修の資料を基にホーム内で伝達研修や各フロアごとの随時研修を行ったり、看取りを経験した職員の体験を聞く機会なども設けています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時・事故の際の為に定期的に研修や訓練を実施しております。		

グループホームたのしい家醍醐 1ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対応を掲示し、迅速な対応ができる様に努めております。地域の防災訓練にも参加し、協力体制を構築、災害時に対応できるように努めております。	年2回、消防署員立会いの下、昼夜を想定した避難訓練を実施し、通報や初期消火、避難誘導等を行い、消防署員からアドバイスをもらっています。訓練時には地域の方へ声をかけ、運営推進会議で訓練の報告をしています。また、可能な利用者と一緒に地域の防災訓練にも参加しています。備蓄品は、水やごはん、粥、乾パン、カセットコンロなどを備えています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々のことなので、声のかけ方、トーン等々を注意するよう指導しております。	年1回、法人が主催する接遇マナー研修に代表者が参加し伝達研修をしたり、ホーム独自の研修も随時行っています。慣れあいにならないように、言葉遣いは丁寧語で、名前は苗字で呼んでいます。不適切な対応があった場合は、職員同士や管理者が注意するようにしています。入浴支援など希望があれば同性介助も可能です。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かする時、されるときの声掛けは本人の意思の確認を必ず行い自己決定できるように努めております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人様の希望に耳を傾け、本人様が希望される行動やペースを大切に出来るように努めております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節やご本人の希望に添い衣類を選択できるように支援に努めております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しんで頂けるよう、食事レクの実施、入居者様との買い出し、調理もお手伝い頂けるように努めております。	業者から献立と食材が届きホーム内で調理し、利用者に味見や盛り付け、食器洗いや片づけなど、できることに携わってもらっています。月に1~2回は利用者の好みの献立にしたり、外食や出前、バイキングなどの行事食、クッキーやケーキなどの手作りおやつを適宜取入れ楽しみのある食事になるように工夫しています。クリスマス会のバイキング食は家族と一緒に食事を楽しむ機会にもなっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の観察で、本人様にあった食事量、ペース、水分量等職員で話し合いながら本人様に無理な促し等をさけて支援できるように努めております。		

グループホームたのしい家醍醐 1ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの促し、介助を行ないます。週に一回の訪問歯科も取り入れております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	モニタリングにより、本人様にあった時間間隔で誘導・声掛けを行なっております。	個々の排泄記録をつけパターンを把握し、声かけや誘導を行いトイレでの排泄を基本としています。紙パンツやパッドの使用方法、支援方法についてカンファレンスで話し合い、支援の結果、失敗が減り、パッドの大きさを小さくしたり、紙パンツから布パンツに移行し肌荒れが改善し快適に過ごせるようになった利用者もおり、個々の力を活かした支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防の為、個々に応じた便秘予防に努めております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人様の希望に合わせて入浴ペースを重視しておりますが、職員の配置等の都合から、基本的には曜日等を決めさせていただいております。	週に2回は入浴してもらえるように支援しており、希望により回数を増やすことも可能です。湯は一人ずつ入れ替え、好みの石けんやシャンプー、リンスなどを使ってもらったり、入浴剤を入れるなど気持ちよく入浴できるようにしています。拒否される方については、声かけを工夫したり、時間や職員を変えたりして対応し無理のない入浴支援に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人様の状態を観察し、休息を促したり、希望にそって休息して頂いております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からの研修を取り入れ、副作用等の知識を職員が理解できるように努めております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人様に日々の生活に活気が出るように役割等を持って頂き、日々の生活を楽しくして頂けるよう努めております。		

グループホームたのしい家醍醐 1ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出希望がある方は、その都度の対応は難しくても職員が買い出し等、外に出る際に同行して頂き希望に添えるように努めております。	近隣への散歩や買い物など日常的な外出や初詣や花見、紅葉見学などの季節の外出、ドライブに出掛けています。また個別外出として馴染みのデパートでの買い物や外食などにも力を入れています。外出が苦手な方についても、外気浴をするなどして気分転換を図っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様が希望に添えるようにお金を所持されておられますが、トラブル等を避ける為、本人様・家族様に了承を取り、金銭の管理を施設側で行なっております。ただ職員と外出時に本人様が希望でお預かりしているお金からお買いものをされております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、電話や手紙などは支援させて頂いております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾り付けや掲示物で季節を感じて頂けるように努めております。	ひな祭りや七夕、クリスマスなどのイベント時にはその時々季節の飾り付けをしたり、家族や職員が持参した生花を飾ったりしてしています。可能な利用者と一緒に掃除や換気を毎日行い、空気清浄機や温湿度計を設置し利用者の体感も聞きながら快適に過ごせるように努めています。テーブルや席の配置変更についても利用者の様子を見ながら随時行っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席にて塗り絵等に取り組みれたり、他の入居者様との交流など、思い思いに過ごさせて頂いております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人様のプライベートな空間として認識しております。本人様の使い慣れた家具など本人様の希望にそい、危険がないように工夫に努めております。	入居時に今まで使っていた馴染みの物を持参してもらおうようにしています。テレビやラジカセ、タンス、仏壇、人形、大切な家族の写真、趣味の編み物道具などを持参しており、本人と相談しながら家族が配置しています。毎日清掃と換気を行い、快適に過ごせる居室作りに配慮しています。希望により布団で休むことも可能です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面を考え職員の同行が基本になり、自由・自立とまでは出来ませんが、希望者にはフロア出入口が施錠されていますが、開放し職員の見守りで他ユニットへ遊びに行ったりされています。		